

- I 日 時 平成 28 年 11 月 4 日（金）19：00～20：00
- II 場 所 北部合同庁舎 2 階 会議室 2
- III 出席者 〈運営委員〉  
門川 由加里、今富 沙矢香、福澤 香織、木村 希恵、  
丸橋 美栄、山本 千砂都（以上保護者会会長）  
入江 幸一（市民生委員児童委員協議会代表）、川端 建一（市自治連合会代表）  
高嶋 謙治（小学校教頭会代表）辻村 博子（市健康福祉部政策監）  
井狩 重則（社協事務局長）  
上田 真弓、渋谷 敬子、梶谷 明美、杉本 邦子、北脇 幸、  
太田 千鶴（以上学童保育所所長）  
〈事務局〉  
水谷 威彦（事務局次長）、  
益田 研（福祉企画課課長補佐）、中村 江利子（担当）  
〈健康福祉部〉  
三上 忠宏（こども課課長）、角田 晴美（こども課学童保育担当）

## 【内容】

- 1 開会
- 2 運営協議会会長あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) 平成 29 年度 野洲市こどもの家（学童保育所）入所受付状況について  
(事務局より)－資料①参照－
    - ・入所案内説明会 10 月 15 日（土）実施。70 名強の参加。
    - ・第一次申込み期間 10 月 26 日（水）～29 日（土）4 日間実施。
    - ・受付総数 771 名。不備書類分を抜くと 748 名の申込み。
    - ・平成 28 年の一次申込者数 668 名。まだ二次申込みがあるが、昨年度と比較して約 10%多い申込の状況。
    - ・学区では、昨年度と同じく北野学区。（昨年度より 20 名以上多い。）  
篠原は、申込者数 56 名でその内新 1 年生が 20 名。市内で唯一の単一所。定員 60 名に対する空きが残り 4 名となっている。
    - ・二次申込みの受付を 12 月に 3 日間実施する。  
一次申込みの結果を各所長にデータ配布をして、申込みがまだの人へのアプローチを行う。
    - ・事務局試算で、来年は 980 名前後申込みの予定。
    - ・申込み期間での申込みの推進を図るが、一斉申込み期間後の夏休み前の申込みが今年度も 60 名前後いた。運営上、児童数がギリギリまで見込めない。
    - ・現在 24 の学童保育所の内、22 学童保育所を開所しているが、平成 29 年度は、この一次申込み状況を踏まえて、野洲第 7 学童保育所を年間通じて開所する予定。
    - ・野洲小学校区は、今年度の夏前に児童数が 276 名。現在開所している野洲第 6 学童保育所までの定員が 240 名だったので、夏の大幅に児童が増える時期のみ野洲第 7 学童保育所を開所したが、運営上難しい課題も多く、次年度は適正化を

図る上からも、通年での開所を予定している。

【質疑・応答】

- 会長 ・ 篠原小学校の現在の1年生は25名ほどしかいないが、来年は20名も1年生の申込み数が増えている。なにか理由はあるのか。
- 所長 ・ 篠原学区の学童保育利用率が大変高く、小学生のうち38パーセントが学童保育所に通われている。1年生のスタートの時期から学童保育所に通わせようとする意識が高いのではないかと思う。1年生の割合も多く、配慮を要する期間でもあるので、この結果に正直私も戸惑っている。
- 会長 ・ 今後こういう傾向になっていくと、1学童となると、足るのか足りないのかそういう議論になってくるのではないか。
- 所長 ・ 篠原学童保育所は4年生以上が半数を占めている。体も大きい上級生なので1つの部屋で過ごすにはストレスを感じて課題が出てくるのではないか。
- こども課 ・ 児童数について、篠原小学校区の入學予定児童数は40名程度と聞いている。

(2) アンケート調査結果について (事務局より) -資料②③参照-

- ・実施時期 10月26日から10月29日  
前回 平成27年度7月21日から8月28日の間 第1回を実地。  
利用者の方の満足度を確認するという形で行う。
- ・要望等実施していけるものから実施。  
指導員に対しては、名前や顔がわかりづらいということで、写真入りのボードを掲示する。  
外部のボランティア団体との関わりを推進。生活体験の行事も多く取り入れる。  
環境面では、エアコン使用のガイドラインを制定し、生活室の設定温度を決めて使用の適正化を図った。また、設定温度を表示し利用者へ周知するようにした。
- ・土曜日保育(土曜開所)にポイントを絞って今回実施。  
申込期間をアンケート実施期間にしたため、ほぼ100%回収。  
回答数が559枚。(世帯数)
- ・アンケート内容  
設問 「土曜保育があれば利用したいですか。」  
回答項目 「利用する」 266世帯 47,6%  
「利用しない」 293世帯  
各小学校区別での回答もそれぞれ40~50%の利用希望がある。  
北野・祇王小学校区については50%を超える利用希望がある。
- ・設問「3」以降は利用したい方対象のアンケート。(希望者266人の内訳)  
利用時間 6割の方が通常時間(延長保育を除く時間帯の利用希望)  
利用頻度 毎週利用したい方は4分の1程度であり、土曜日保育を実施した際の実際の利用者数については少なくなる見込みである。  
合同保育への理解 44,7%の方が、運営上合同保育(市内1~2箇所開所)へ理解が高い結果であると理解している。

【質疑・応答】

- 会長 ・ 土曜開所がアンケート結果、利用したい人が半数ぐらいになるが、市の方ではどのようにお考えか。
- こども課 ・ 土曜日保育に関しては、以前からお声をいただいていた課題として認識している。実際どのぐらいのお声があるのかと、アンケートさせていただいた。

今までも「持続ある運営を考える委員会」の方で、提言としていただき、反映させていただいた経緯があるので、そういった過程を経て何らかの形で答えを出させていただいたらどうかと考えている。

委員会を開かせていただくにしても、これから29年度の予算の編成時期でもあるので、充分考えていきたい。

- 会長 ・「持続ある運営委員会」を開かなければならないのか。
- こども課 ・合同保育というような意見もいただいているので、保育形態をどうしなければならないか考えないといけないし、保育料の設定もあり、また指導員の確保もあるので、十分に検討させていただいて安定した事業にしていきたい。
- 所長 ・お迎えで土曜日保育をして欲しいという意見は聞かせていただいていた。数字にあがっていると、積極的にすすめていっていいと思うが、人員確保、場所の設定については十分に考えてからでないといけないと思う。
- 所長 ・もし合同になったら、いつも過ごしている所と違う場所になるので、子どもに安全・安心な学童を提供するために、慎重に考えていかなければならない。
- 委員 ・次のアンケートが終わるとある程度結果が出る。どこまで考えておられるのか。
- こども課 ・以前から、お声は聞かせていただいていたが、具体的な数字になって表れたのは初めてなので、これから具体的に考えていきたいと考えている。

### (3) 野洲市内学童保育所児童交流事業について（事務局より）－資料④参照－

- ・運営協議会の中で、平成25年にご提案いただいた。  
小学校区内の複数所において実施している合同行事加えて、校区を越えての交流を実施して子どもたちに「魅力のある学童保育所作り事業」の一環として取り組めな  
いかという意見ももっている。
- ・平成26年度から毎年1回ずつ実施してきた。
- ・主に、冬休み・春休みに実施してきたが、今年度は、10月3日運動会の振替休日に実施する。
- ・児童の移動については、大型バスを2台利用した。
- ・北野1.2学童-中主3.4学童 中主1.2学童-北野3.4学童 三上1.2学童-篠原学童  
野洲3.4学童-祇王1.3.4学童 祇王5.6学童→野洲1.2.5.6学童での児童交流
- ・在籍643名に対して参加率が45.9%と事業への参加率が低く開催時期への課題が残った。
- ・今後実施時期や内容を深めていきたい。継続して実施することで、事業として定着させるとともに、より良いものにしたい。

#### －感想－

- 所長 ・午前中はドッジボール、午後はウォークラリーを実施。  
最初は緊張した様子だったが、自分の力を出し切っていた。
- ・午後からのウォークラリーは、グループで協力しなければならないゲームをした。
  - ・フローティングスクールで一緒だった子と再会し、いつにない笑顔が見られた。
- 所長 ・歓迎式では、ハンドベル・けん玉ダンス・劇発表を行う。
- ・両方の学童保育所の子どもたちが混合になるよう、くじ引き方式でグループ作り。
  - ・昼食、集団活動、おやつもグループで過ごす。特に大きな混乱もなく、和やかに過ごす。
  - ・今後は「子どもアンケート」などで事前調査を行い、より有意義で充実した交流事業を展開できればと願う。

(4) 野洲市こどもの家(学童保育所)の制度変更について ー資料⑤参照ー

- ・季節保育料通年保育料の適正化を図るために3ヵ年に亘り実施。
- ・保育料は、こどもの家総事業費から国及び県の補助金を差し引く、そして特別支援児にかかる経費を差し引いたその残りを市と保護者で折半している。

事務局 次回の日程は、会長、副会長と調整のうえ日程を決めますが、次年度の入所申込み結果をお伝えする予定でありますので、3月頃を予定しております。

4 閉会